

●各科別漢方の生かし方

東 洋 医 学 シ ン ポ ジ ウ ム

方を

開会にあたって

寺澤 捷年 先生

富山医科薬科大学



第54回日本東洋医学会学術総会に先立って開催されますサテライトシンポジウム「東洋医学シンポジウム」は、今回で第10回を迎えます。

本シンポジウムは従来から「こんな時には漢方を」というテーマで、各科領域の先生方から日常臨床での漢方の応用についてお話をいただいております。漢方診療をしていますと、必然的にその守備範囲が大変広がります。たとえば私は、内科を中心としていますが、場合によっては皮膚疾患を、あるいは精神的な疾患を診療しなければならないこともあります。このように領域をまたがった全人的な医療を行なうことができるのも、漢方診療の妙味の一つであると思います。

そこで、「第10回東洋医学シンポジウム」もシンポジストとして内科、皮膚科、産婦人科、精神神経科、整形外科、脳神経外科という多彩な診療科からご専門の先生方にお集まりいただき、日頃の蘊蓄を傾けていただく予定です。また、コメンテーターを加賀屋病院の三谷和男先生にお願いしています。

ご参加された先生方もご自分の専門外のシンポジストのお話をお聞きいただき、明日からの診療にご参考にしていただけることが多くなるようコーディネートさせていただきますので、ご期待ください。